

# 人権に関する県民意識調査

報告書（概要版）

令和4年（2022年）3月

佐 賀 県



## 目 次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 調査概要.....                            | 1  |
| 回答者の構成.....                          | 2  |
| 1 社会的な風習についての考え方.....                | 3  |
| 1. 結婚式は「大安」が一番良いという風習.....           | 3  |
| 2. 「友引」の日に葬式をしてはいけないという風習.....       | 3  |
| 2 人権についての考え方.....                    | 4  |
| 1. 基本的人権は守られているか.....                | 4  |
| 2. 人権・差別問題への関心度.....                 | 4  |
| 3. 関心がある人権問題.....                    | 5  |
| 4. 人権侵害について.....                     | 6  |
| 5. 「他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見について..... | 6  |
| 6. 人権問題について授業、講義等を受けたことがあるか.....     | 6  |
| 7. これまで受けた人権問題についての授業、講義等.....       | 7  |
| 8. 自分の人権が侵害されたと思ったことがあるか.....        | 7  |
| 9. 自分の人権が侵害されたと思ったのはどのような場合か.....    | 8  |
| 10. 人権問題に関する相談窓口として知っているもの.....      | 9  |
| 11. 自分の人権が侵害された場合の対処.....            | 9  |
| 12. 差別意識.....                        | 10 |
| 13. 法律の認知度.....                      | 11 |
| 3 人権問題について.....                      | 12 |
| 1. 女性の人権について.....                    | 12 |
| 2. 子どもの人権について.....                   | 12 |
| 3. 高齢者の人権について.....                   | 13 |
| 4. 障害者の人権について.....                   | 13 |
| 5. 外国人の人権について.....                   | 14 |
| 6. HIV感染者（エイズ患者）等の人権について.....        | 14 |
| 7. ハンセン病患者（元患者）等の人権について.....         | 15 |
| 8. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害について.....     | 15 |
| 9. 犯罪被害者等の人権について.....                | 16 |
| 10. インターネットによる人権侵害について.....          | 16 |
| 11. 性的指向・性自認などの性の多様性に関する人権について.....  | 17 |
| 4 同和問題（部落差別）について.....                | 18 |
| 1. 同和問題（部落差別）に関する認識について.....         | 18 |
| 2. 同和問題（部落差別）の起源説.....               | 18 |
| 3. 同和問題（部落差別）に関して起きていると思う人権問題.....   | 18 |
| 4. 同和問題（部落差別）についての考え方.....           | 19 |
| 5. 同和問題（部落差別）という言葉聞いたことがあるか.....     | 19 |
| 6. 初めて部落差別又は同和問題の言葉を聞いた時期.....       | 19 |

|  |    |
|--|----|
| 7. 部落差別又は同和問題がどのような内容のものか知っているか.....             | 20 |
| 8. 同和問題（部落差別）が不当な差別であることを知っているか.....             | 20 |
| 9. 同和問題（部落差別）を認知したきっかけ.....                      | 20 |
| 10. 同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をしたことがあるか.....     | 21 |
| 11. 同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をした場面、事例.....      | 21 |
| 12. 同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがあるか..... | 21 |
| 13. 同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で見た人権侵害事例の内容.....     | 22 |
| 14. 現在でも同和問題（部落差別）があると思うか.....                   | 22 |
| 15. 同和問題（部落差別）が残っているとすれば、その原因はどこにあると思うか.....     | 23 |
| 16. 同和地区出身者に対する意識について.....                       | 24 |
| 17. 同和問題（部落差別）解決についての方策.....                     | 27 |
| 18. 同和問題（部落差別）の解決に必要なこと.....                     | 29 |
| 19. 同和問題（部落差別）を解消するために、学校教育や啓発をどのようにすればよいか.....  | 29 |
| 20. 同和問題（部落差別）の将来.....                           | 29 |
| 5 人権擁護に関する啓発活動について.....                          | 30 |
| 1. 人権擁護の効果的な啓発活動.....                            | 30 |
| 2. 人権問題の解決策.....                                 | 30 |

## 調査概要

### 1 調査の目的

この調査は、県民の人権に関する意識等の実態を把握し、人権・同和問題（部落差別）の解決に向けて佐賀県人権教育・啓発基本方針に基づいた啓発活動等の内容検討に資するための基礎資料を得ることを目的としています。

### 2 調査の設計

#### (1) 主な調査項目

- ・社会的な風習についての考え方 (2問)
- ・人権問題についての考え方 (13問)
- ・各種人権問題について (22問)
- ・同和問題（部落差別）について (30問)
- ・人権擁護に関する啓発活動について (2問)

#### (2) 調査対象と調査の方法

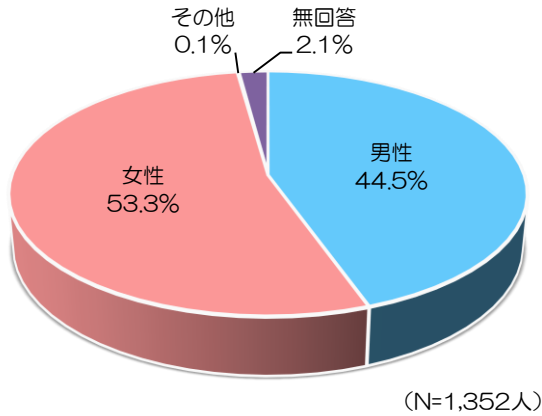
|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 調査対象   | 佐賀県に居住する18歳以上の男女3,000人               |
| 抽出方法   | 層化二段無作為抽出法                           |
| 調査方法   | 調査票は郵送し、回答は調査票の返送又は専用WEBサイトからの回答とした。 |
| 調査時期   | 令和3年10月7日～11月30日                     |
| 有効回答者数 | 1,352人（有効回答率：45.1%）                  |

#### (3) 報告書の見方

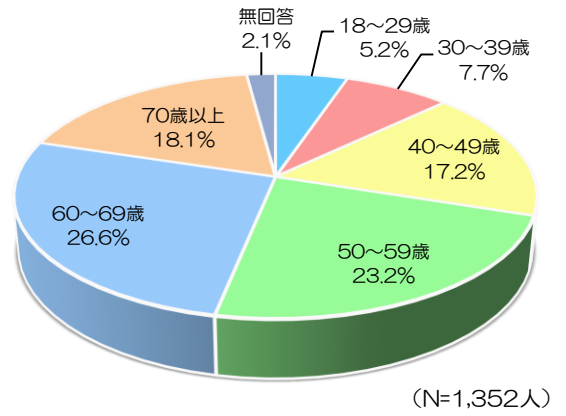
- ・今回調査の比較に用いた全国調査は内閣府大臣官房政府広報室が実施した「人権擁護に関する世論調査（平成29年10月調査）」及び法務省人権擁護局が実施した「2019年度人権に関する意識調査（令和元年8月調査）」に基づいています。また、前回調査とは、平成25年に実施した「人権に関する県民意識調査」に基づいています。
- ・「N」は、有効回答者数を表しています。
- ・M. T. (Multiple Total) は、複数回答の設問の場合、回答数の合計を回答者数(N)で割った比率を表し、通常、この比率は100%を超えます。
- ・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

## 回答者の構成

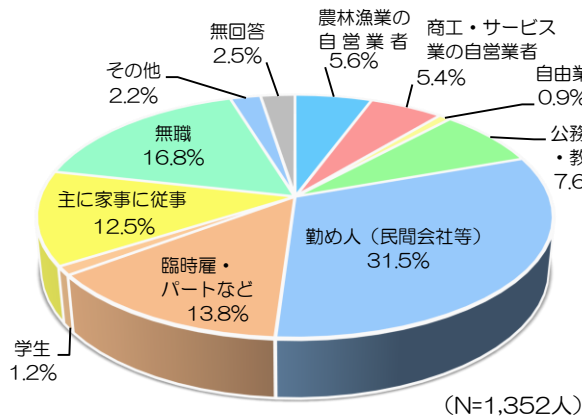
### 1. 性別



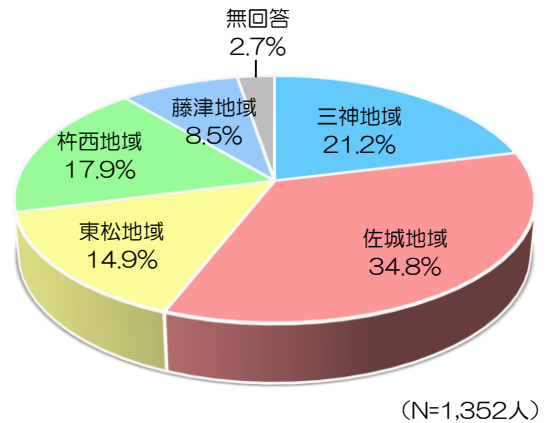
### 2. 年齢別



### 3. 職業別



### 4. 地域別



三神地域・・・鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町  
基山町、上峰町、みやき町

佐城地域・・・佐賀市、多久市、小城市

東松地域・・・唐津市、玄海町

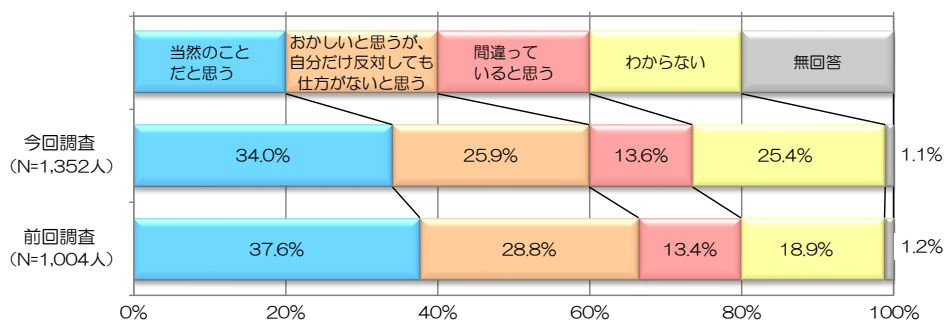
柘西地域・・・伊万里市、武雄市、有田町  
大町町、江北町、白石町

藤津地域・・・鹿島市、嬉野市、太良町

## 1 社会的な風習についての考え方

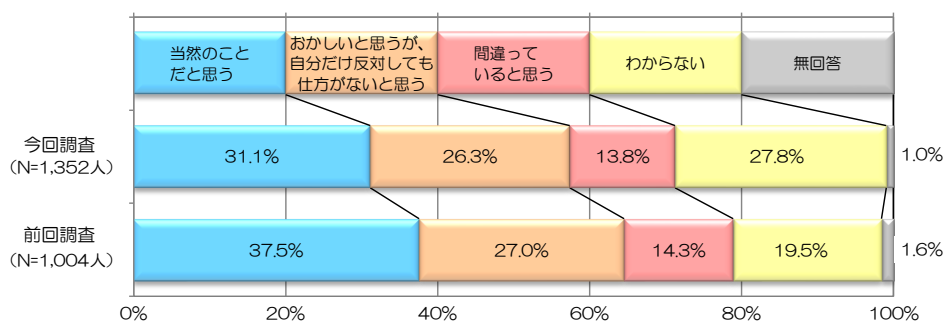
### 1. 結婚式は「大安」が一番良いという風習

結婚式は大安が一番良いという風習については、「当然のことだと思う」が34.0%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」(25.9%)、「わからない」(25.4%)の順となっています。



### 2. 「友引」の日に葬式をしてはいけないという風習

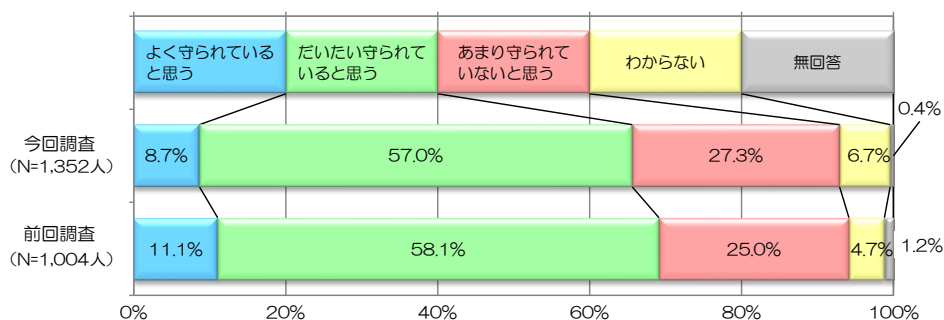
友引の日に葬式をしてはいけないという風習については、「当然のことだと思う」が31.1%と最も高く、次いで「わからない」(27.8%)、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」(26.3%)の順となっています。



## 2 人権についての考え方

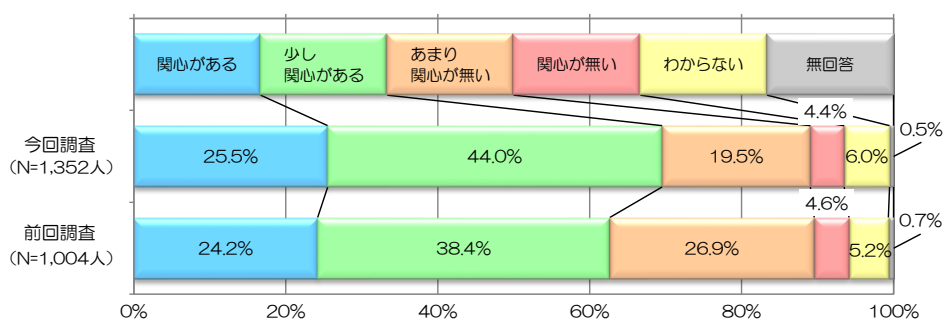
### 1. 基本的人権は守られているか

基本的人権について、「よく守られていると思う」(8.7%)と「だいたい守られていると思う」(57.0%)を合わせた“守られている”は65.7%となっており、反対に「あまり守られていないと思う」は27.3%となっています。



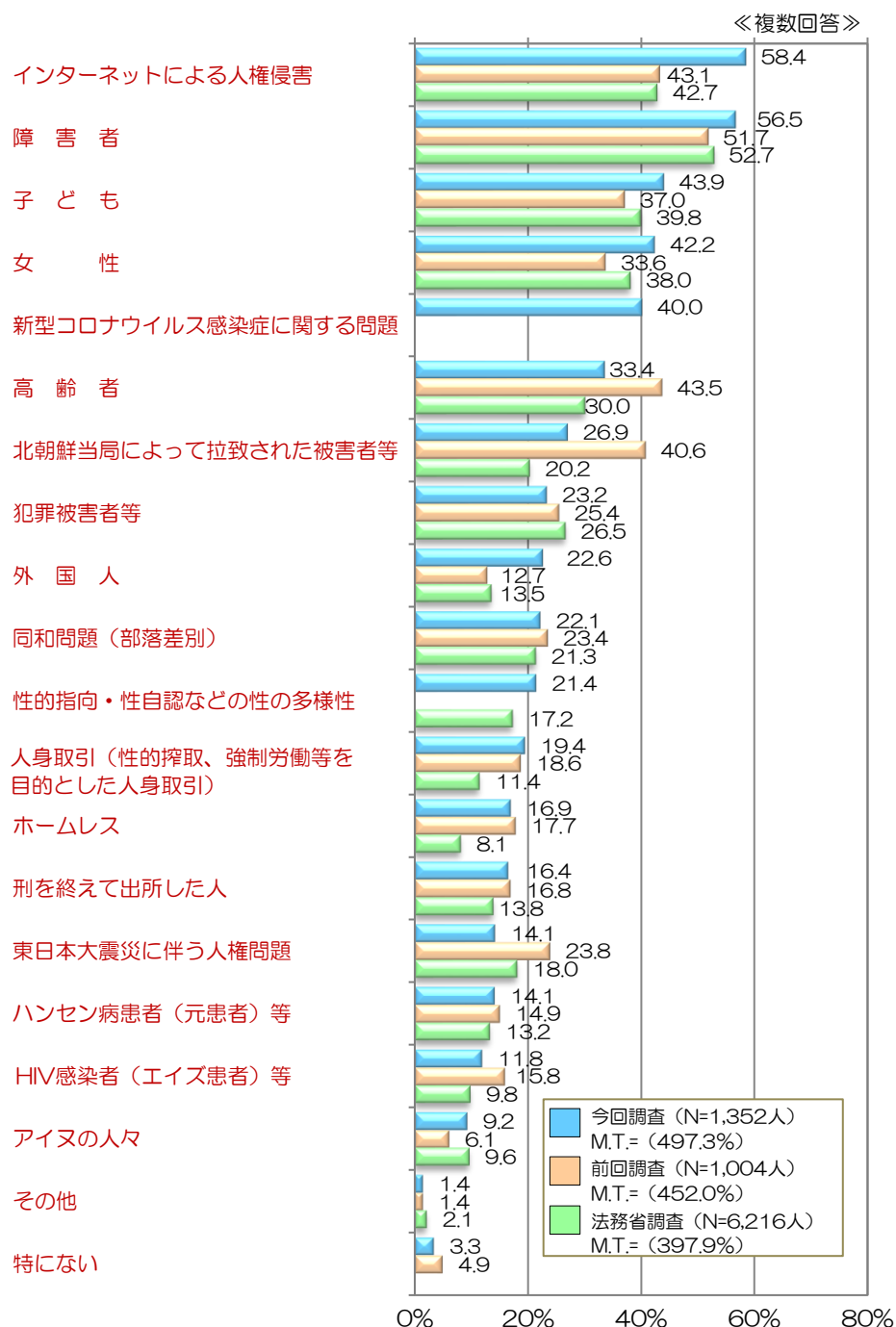
### 2. 人権・差別問題への関心度

人権・差別問題への関心度について、「関心がある」(25.5%)と「少し関心がある」(44.0%)を合わせた“関心を示す”は69.5%となっており、反対に「あまり関心がない」(19.5%)と「関心がない」(4.4%)を合わせた“関心を示さない”は23.9%となっています。



### 3. 関心がある人権問題

関心がある人権問題については、「インターネットによる人権侵害」が58.4%と最も高く、次いで「障害者」(56.5%)、「子ども」(43.9%)、「女性」(42.2%)、「新型コロナウイルス感染症に関する問題」(40.0%)、「高齢者」(33.4%)、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」(26.9%)の順となっています。

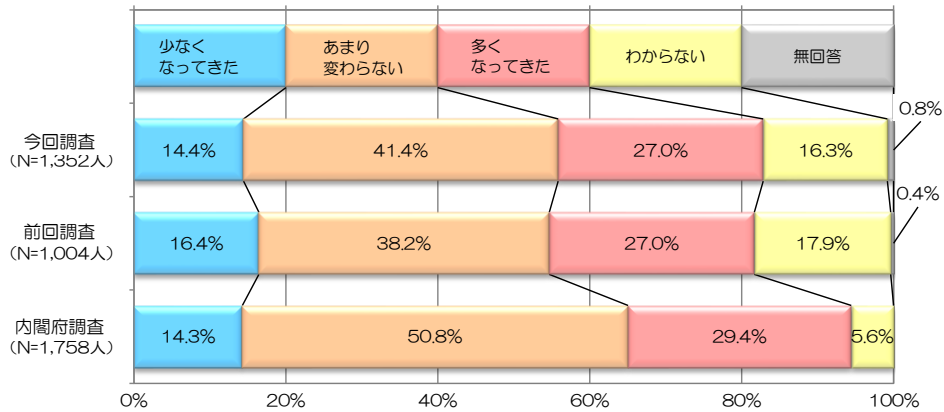


※「新型コロナウイルス感染症に関する問題」は前回調査及び法務省調査では項目なし。  
 ※「性的指向・性自認などの性の多様性」は前回調査では項目なし。  
 ※「特になし」は法務省調査では項目なし。



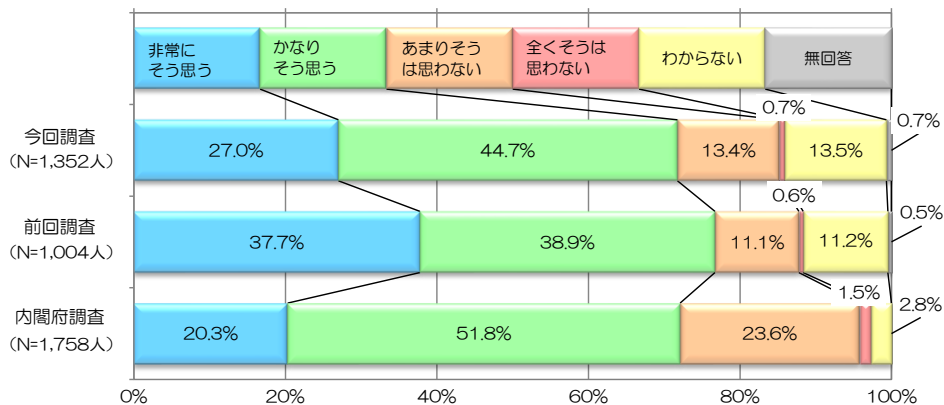
#### 4. 人権侵害について

この5～6年の間に人権が侵害されるようなことは、「あまり変わらない」が41.4%、「多くなってきた」が27.0%、「わからない」が16.3%となっています。



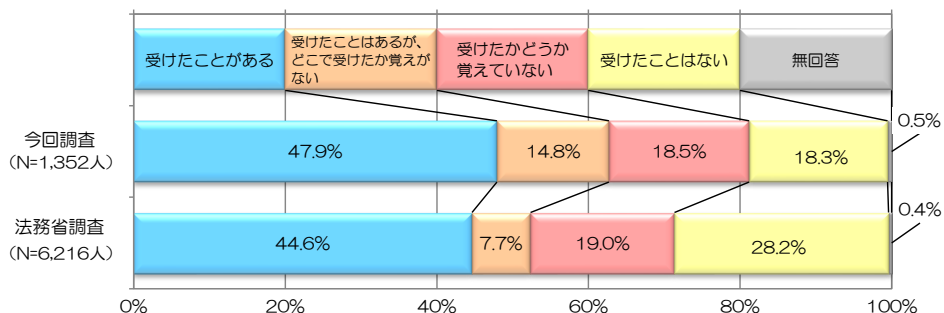
#### 5. 「他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見について

他人の迷惑を考えない人が増えてきたという意見については、「非常にそう思う」が27.0%、「かなりそう思う」が44.7%と7割を超える人が他人の迷惑を考えない人が増えてきたと思っています。反対に「あまりそうは思わない」が13.4%、「全くそうは思わない」が0.7%でした。



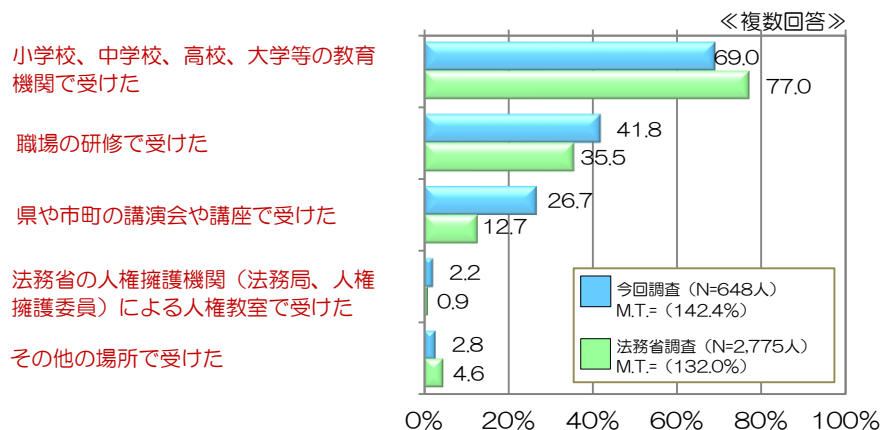
#### 6. 人権問題について授業、講義等を受けたことがあるか

人権問題について授業、講義等を受けたことがあるかは、「受けたことがある」が47.9%と最も高く、次いで「受けたかどうか覚えていない」が18.5%、「受けたことはない」が18.3%となっています。



## 7. これまで受けた人権問題についての授業、講義等

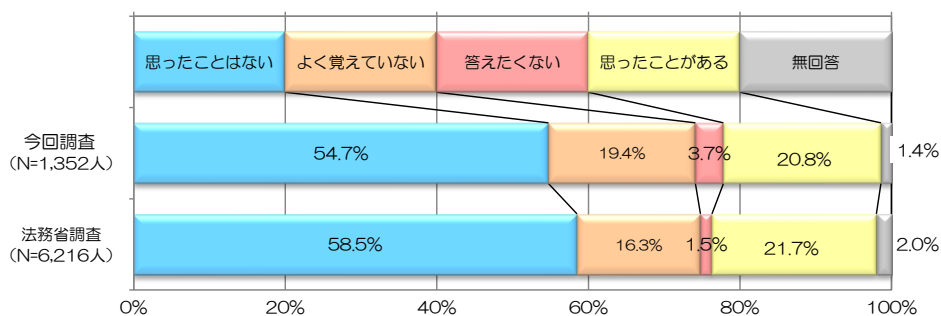
これまで受けた学校、職場及び地域での、人権問題についての授業、講義は、「小学校、中学校、高校、大学等の教育機関で受けた」が69.0%と最も高く、次いで「職場の研修で受けた」が41.8%、「県や市町の講演会や講座で受けた」が26.7%となっています。



※「県や市町の講演会や講座で受けた」は法務省調査の「市民対象の講演会や講座で受けた」と比較している。

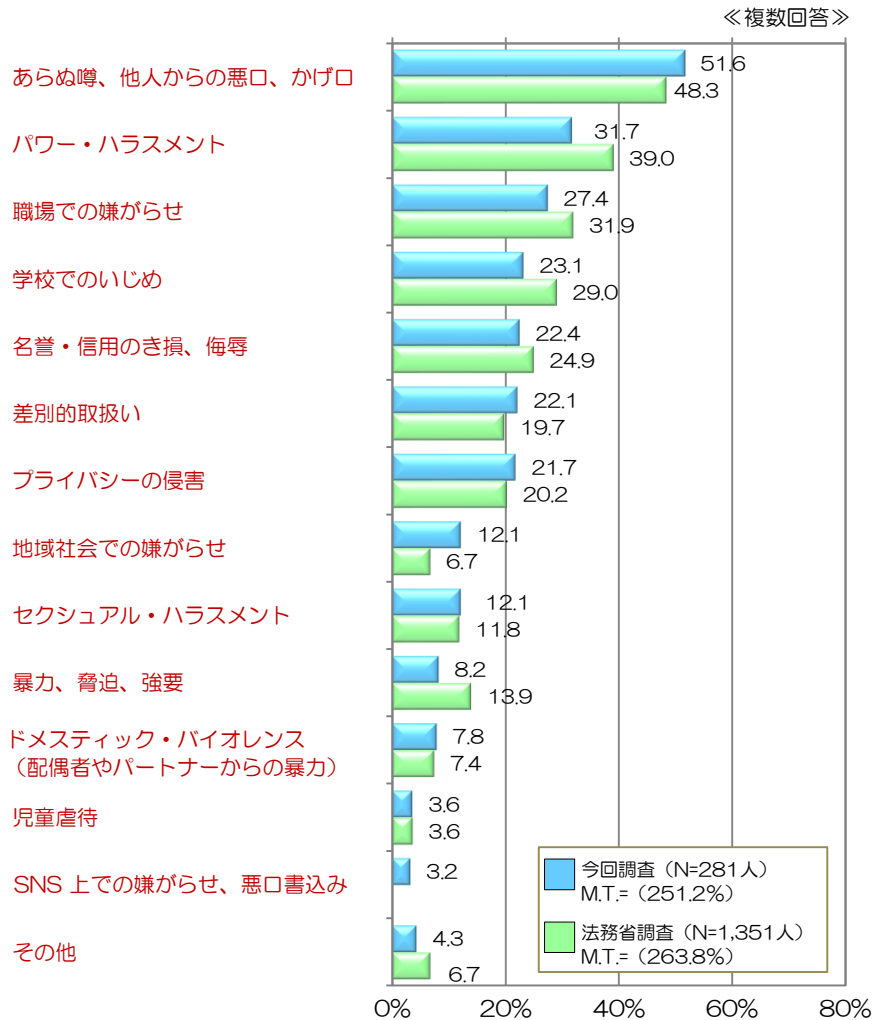
## 8. 自分の人権が侵害されたと思ったことがあるか

自分の人権が侵害されたと思ったことがあるかは、「思ったことはない」が54.7%と最も高く、次いで「思ったことがある」が20.8%、「よく覚えていない」が19.4%となっています。



## 9. 自己的人権が侵害されたと思ったのはどのような場合か

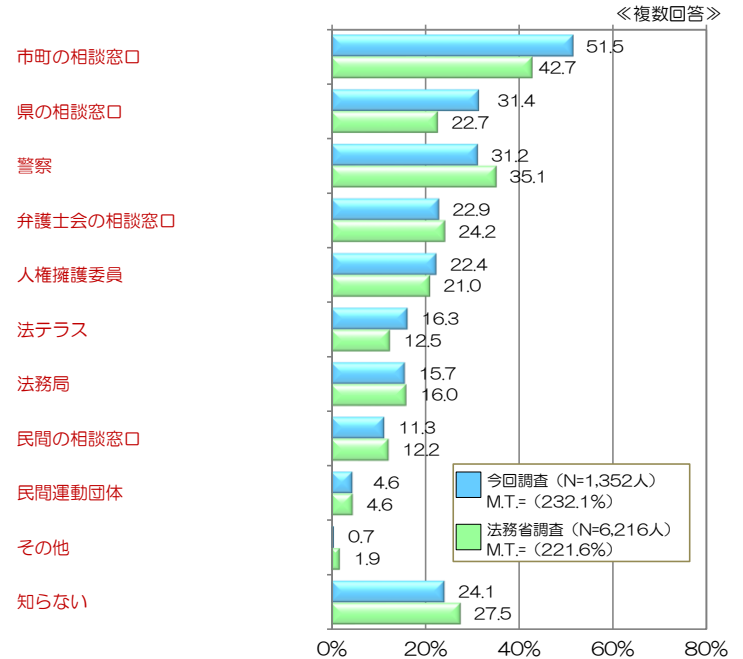
自己的人権が侵害されたと思ったのはどのような場合かは、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が51.6%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメント」が31.7%、「職場での嫌がらせ」が27.4%となっています。



※「SNS 上での嫌がらせ、悪口書込み」は法務省調査では項目なし。

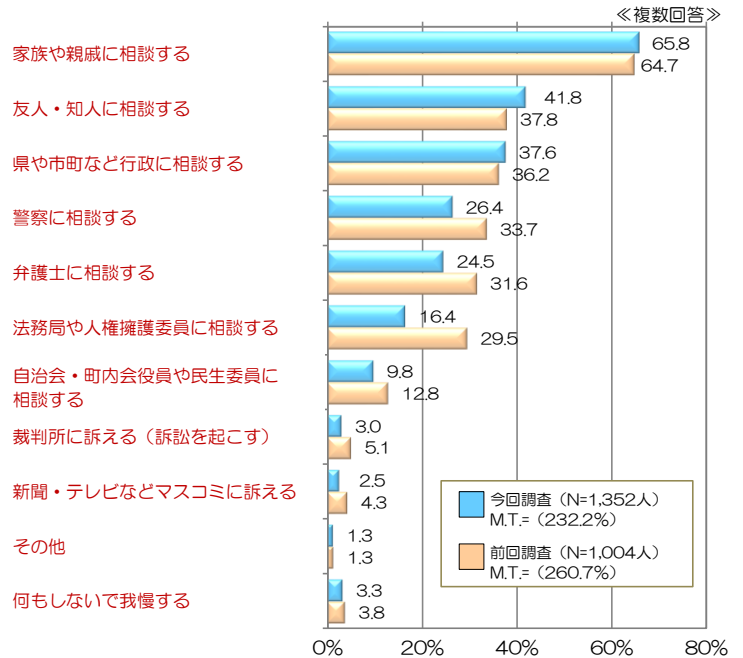
## 10. 人権問題に関する相談窓口として知っているもの

人権問題に関する相談窓口として、どのようなものを知っているかは、「市町の相談窓口」が51.5%と最も高く、次いで「県の相談窓口」（31.4%）、「警察」（31.2%）、「弁護士会の相談窓口」（22.9%）、「人権擁護委員」（22.4%）、「法テラス」（16.3%）となっています。



## 11. 自分の人権が侵害された場合の対処

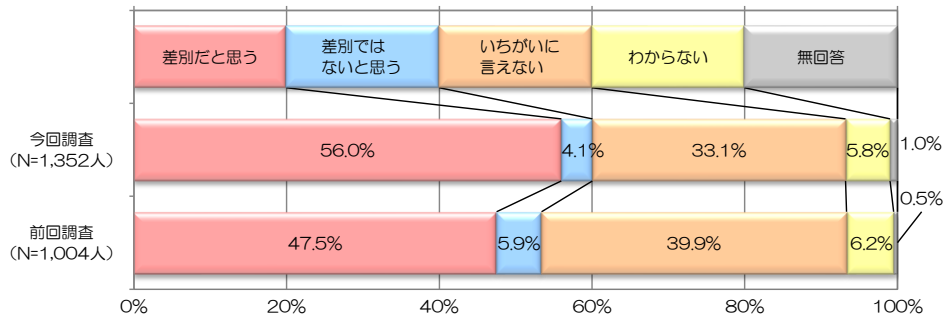
自分の人権が侵害された場合の対処については、「家族や親戚に相談する」が65.8%と最も高く、次いで「友人・知人に相談する」（41.8%）、「県や市町など行政に相談する」（37.6%）、「警察に相談する」（26.4%）、「弁護士に相談する」（24.5%）、「法務局や人権擁護委員に相談する」（16.4%）の順となっています。



## 12. 差別意識

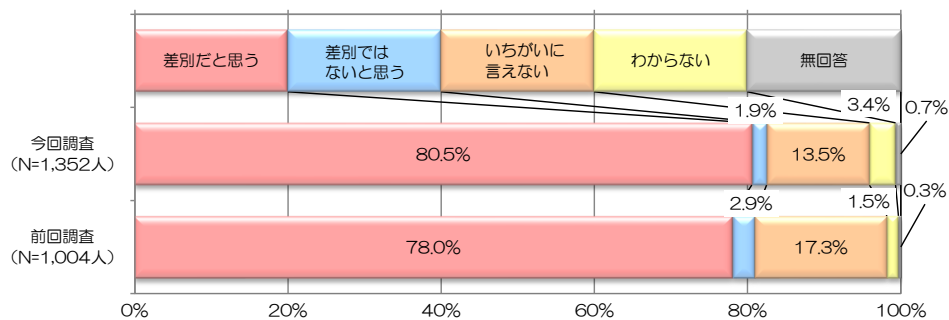
### ①性別だけで定年に違いをつける

性別だけで定年に違いをつけることについては、「差別だと思う」が56.0%、「いちがいに言えない」が33.1%、「わからない」が5.8%となっています。



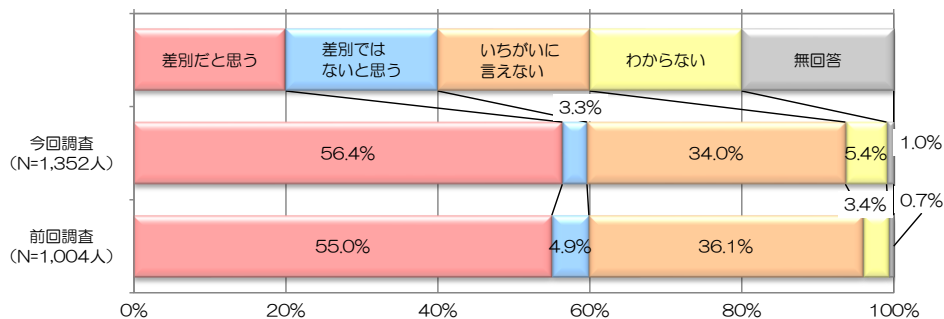
### ②両親のそろっている家庭の子を優先採用する

両親のそろっている家庭の子を、そうでない家庭の子より優先して社員に採用することについては、「差別だと思う」が80.5%、「いちがいに言えない」が13.5%、「わからない」が3.4%となっています。



### ③家柄の違いで結婚に反対する

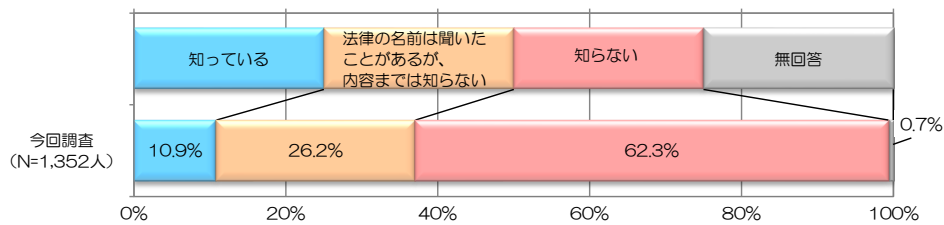
家柄の違いで結婚を反対することについては、「差別だと思う」が56.4%、「いちがいに言えない」が34.0%、「わからない」が5.4%となっています。



### 13. 法律の認知度

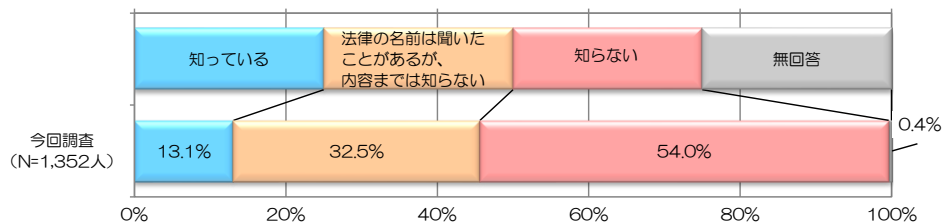
#### ①「障害者差別解消法」

「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」を知っているかについては、「知らない」が62.3%と最も高く、次いで「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が26.2%、「知っている」が10.9%となっています。



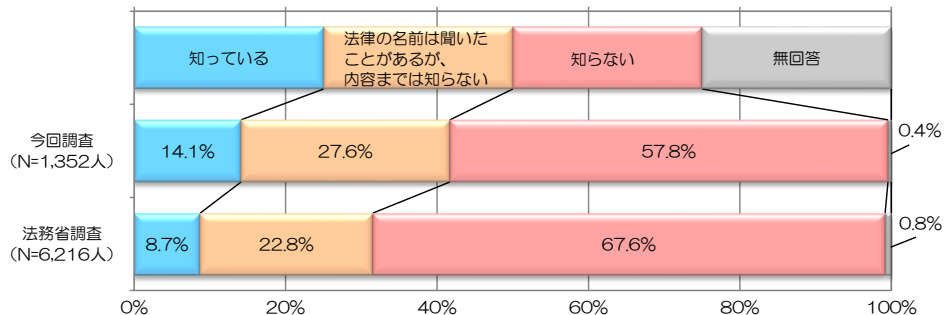
#### ②「ヘイトスピーチ対策法」

「ヘイトスピーチ対策法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）」を知っているかについては、「知らない」が54.0%と最も高く、次いで「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が32.5%、「知っている」が13.1%となっています。



#### ③「部落差別解消推進法」

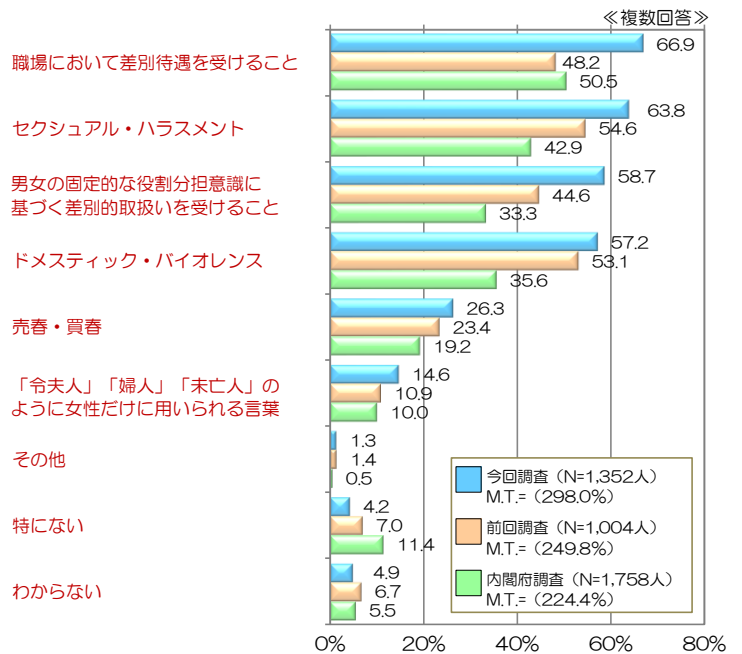
「部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）」を知っているかについては、「知らない」が57.8%と最も高く、次いで「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が27.6%、「知っている」が14.1%となっています。



### 3 人権問題について

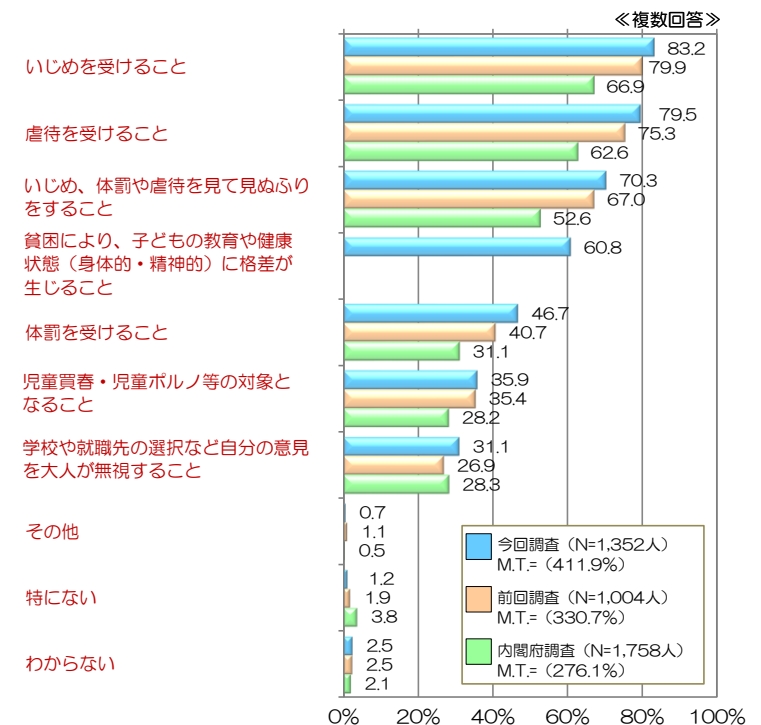
#### 1. 女性の人権について

女性の人権について、問題が起きていると思われることは、「職場における差別待遇を受けること」が66.9%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」(63.8%)、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」(58.7%)、「ドメスティック・バイオレンス」(57.2%)、「買春・買春」(26.3%)の順となっています。



#### 2. 子どもの人権について

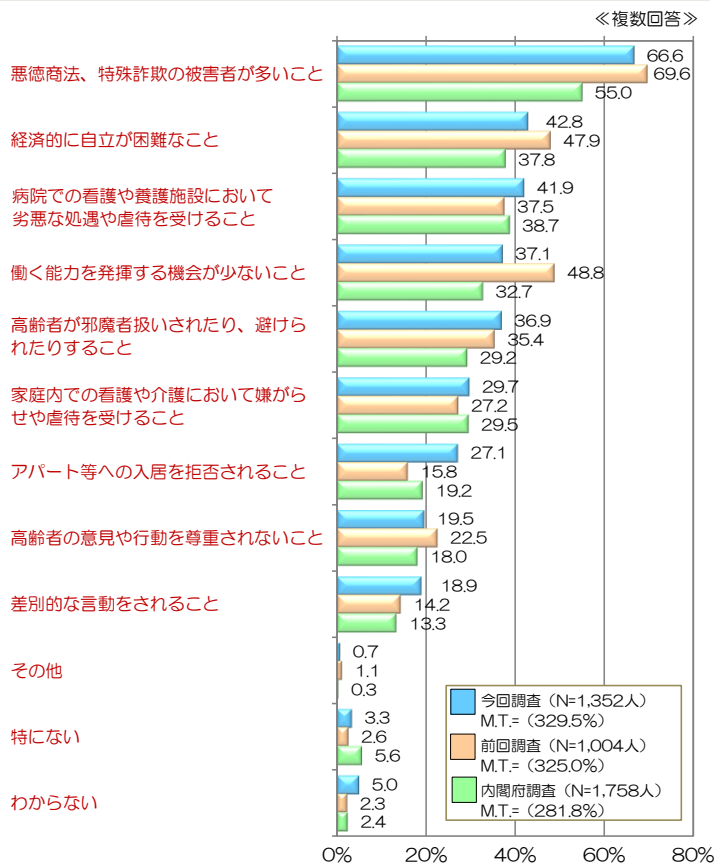
子どもの人権について、問題が起きていると思われることは、「いじめを受けること」が83.2%と最も高く、次いで「虐待を受けること」(79.5%)、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」(79.5%)、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」(70.3%)、「貧困により、子どもの教育や健康状態(身体的・精神的)に格差が生じること」(60.8%)、「体罰を受けること」(46.7%)の順となっています。



※「貧困により、子どもの教育や健康状態(身体的・精神的)に格差が生じること」は前回調査及び内閣府調査では項目なし。

### 3. 高齢者の人権について

高齢者の人権について、問題が起きていると思われることは、「悪徳商法、特殊詐欺の被害者が多いこと」が66.6%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」（42.8%）、「病院や介護施設等において劣悪な処遇や虐待を受けること」（41.9%）、「働く能力を發揮する機会が少ないこと」（37.1%）、「高齢者が邪魔者扱いされたり、避けられたりすること」（36.9%）の順となっています。

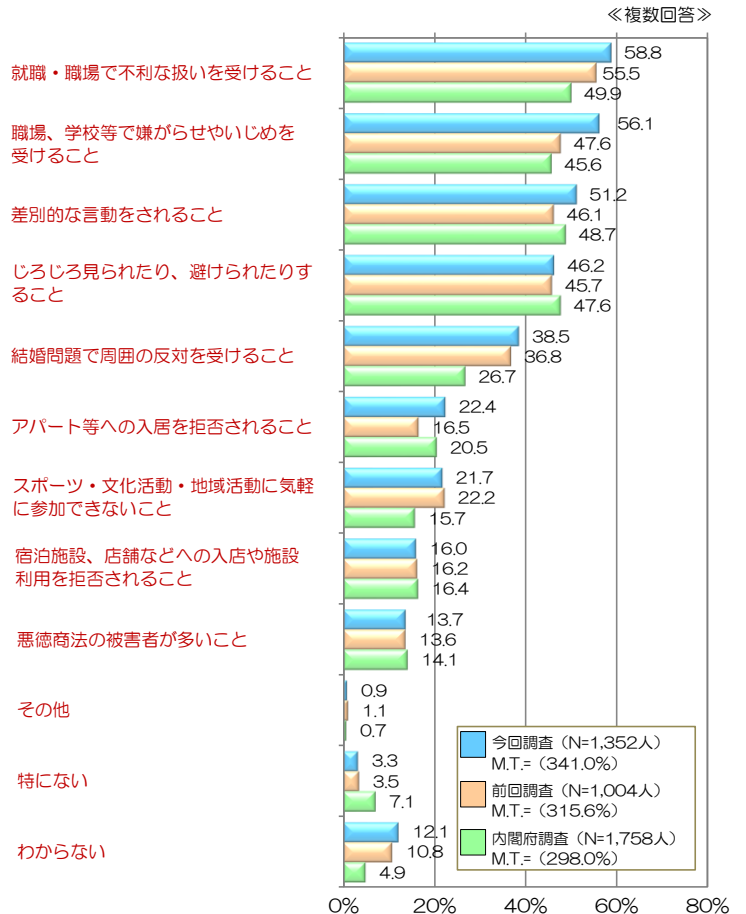


※「悪徳商法、特殊詐欺の被害者が多いこと」は前回調査及び内閣府調査の「悪徳商法の被害者が多いこと」と比較している。

※「高齢者が邪魔者扱いされたり、避けられたりすること」は前回調査の「高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること」と比較している。

### 4. 障害者の人権について

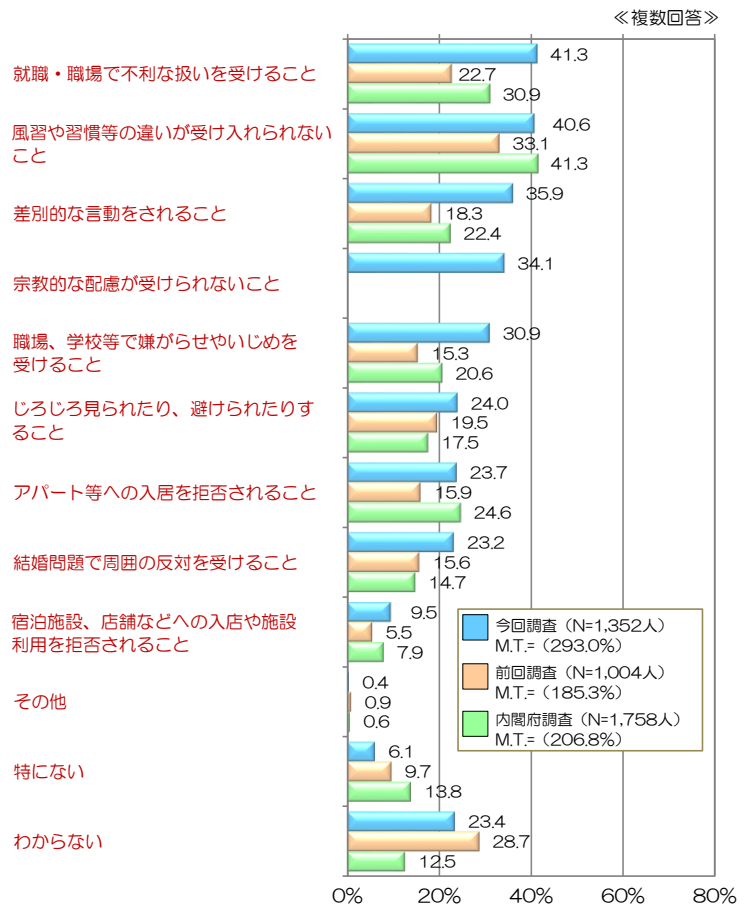
障害者の人権について、問題が起きていると思われることは、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が58.8%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」（56.1%）、「差別的な言動をされること」（51.2%）、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」（46.2%）、「結婚問題で周囲の反対を受けること」（38.5%）の順となっています。





## 5. 外国人の人権について

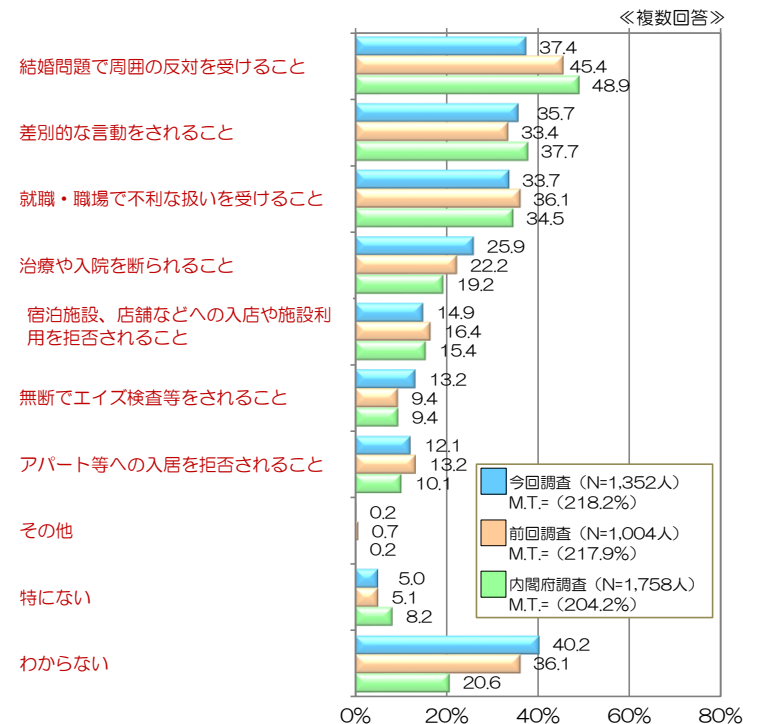
外国人の人権について、問題が起きていると思われることは、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が41.3%と最も高く、次いで「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」(40.6%)、「差別的な言動をされること」(35.9%)、「宗教的な配慮が受けられないこと」(34.1%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(30.9%)の順となっています。



※「宗教的な配慮が受けられないこと」は前回調査及び内閣府調査では項目なし。

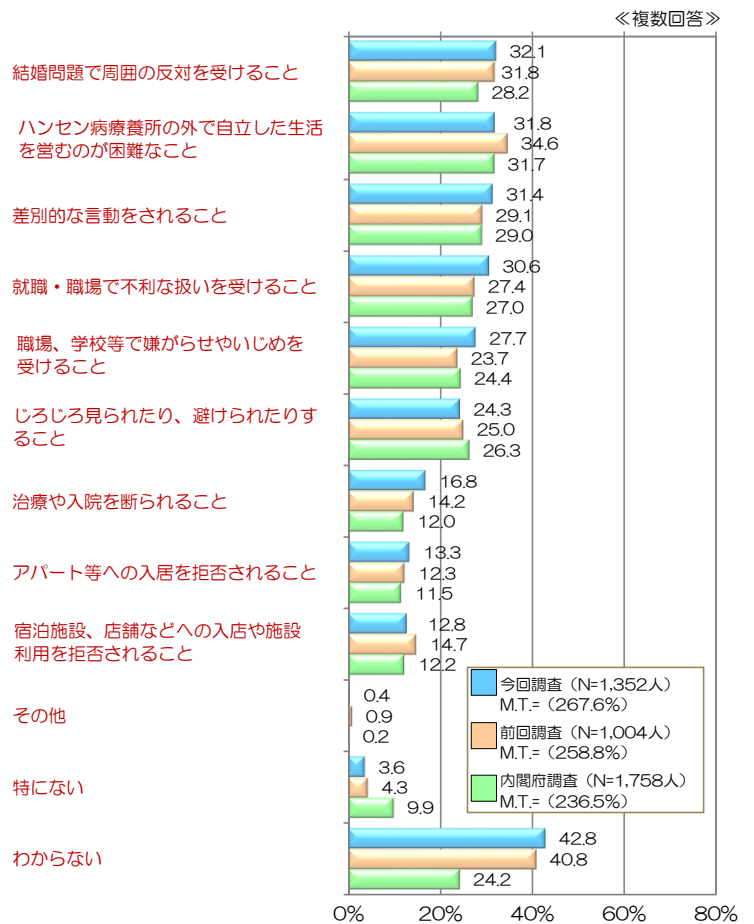
## 6. HIV感染者（エイズ患者）等の人権について

HIV感染者（エイズ患者）等の人権について、問題が起きていると思われることは、「わからない」が40.2%と最も高く、次いで「結婚問題で周囲の反対を受けること」(37.4%)、「差別的な言動をされること」(35.7%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(33.7%)、「治療や入院を断られること」(25.9%)の順となっています。



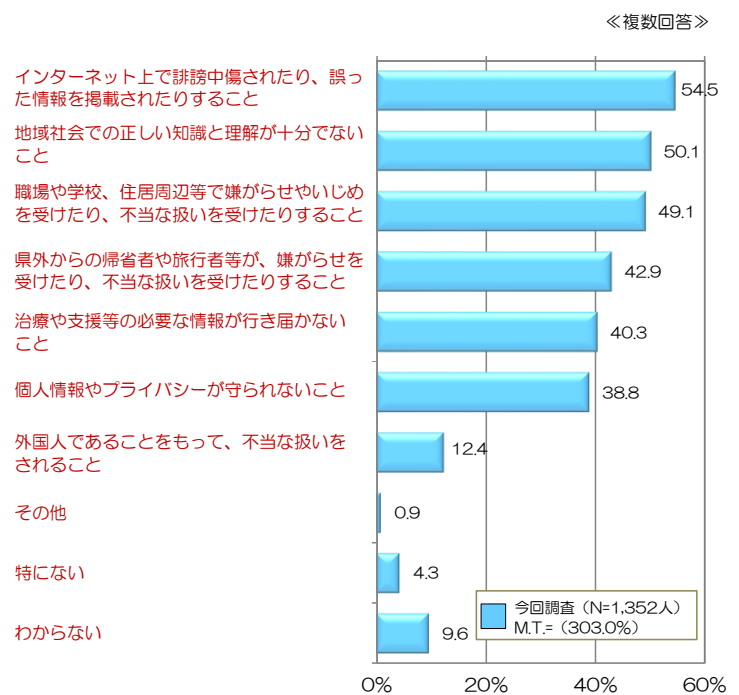
## 7. ハンセン病患者（元患者）等の人権について

ハンセン病患者等の人権について、問題が起きていると思われることは、「わからない」が42.8%と最も高く、次いで「結婚問題で周囲の反対を受けること」(32.1%)、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」(31.8%)、「差別的な言動をされること」(31.4%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(30.6%)の順となっています。



## 8. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害について

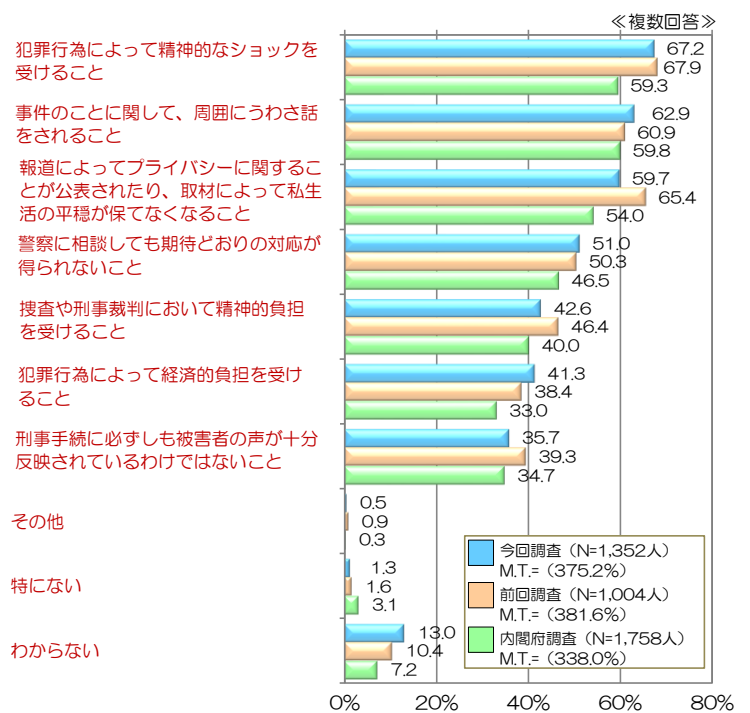
新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害について、問題が起きていると思われることは、「インターネット上で誹謗中傷されたり、誤った情報を掲載されたりすること」が54.5%と最も高く、次いで「地域社会での正しい知識と理解が十分でないこと」(50.1%)、「職場や学校、住居周辺等で嫌がらせやいじめを受けたり、不当な扱いを受けたりすること」(49.1%)、「県外からの帰省者や旅行者等が、嫌がらせを受けたり、不当な扱いを受けたりすること」(42.9%)、「治療や支援等の必要な情報が行き届かないこと」(40.3%)の順となっています。



## 9. 犯罪被害者等の人権について

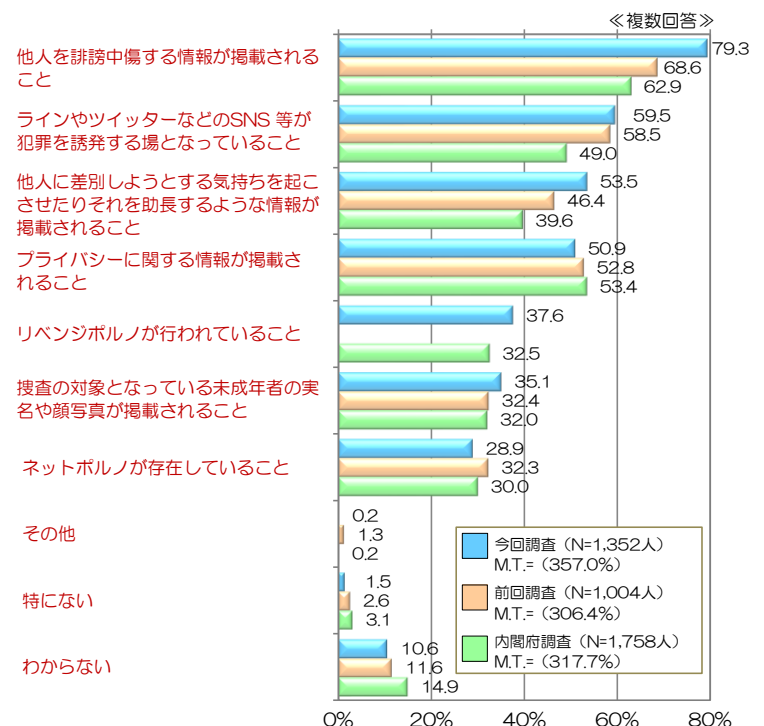
犯罪被害者等の人権について、問題が起きていると思われることは、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が67.2%と最も高く、次いで「事件のことにに関して、周囲にうわさをされること」(62.9%)、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」

(59.7%)、「警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと」(51.0%)、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」(42.6%)の順となっています。



## 10. インターネットによる人権侵害について

インターネットによる人権侵害に関し、起きていると思われる問題については、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が79.3%と最も高く、次いで「ラインやツイッターなどのSNS等が犯罪を誘発する場となっていること」(59.5%)、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」(53.5%)、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(50.9%)の順となっています。

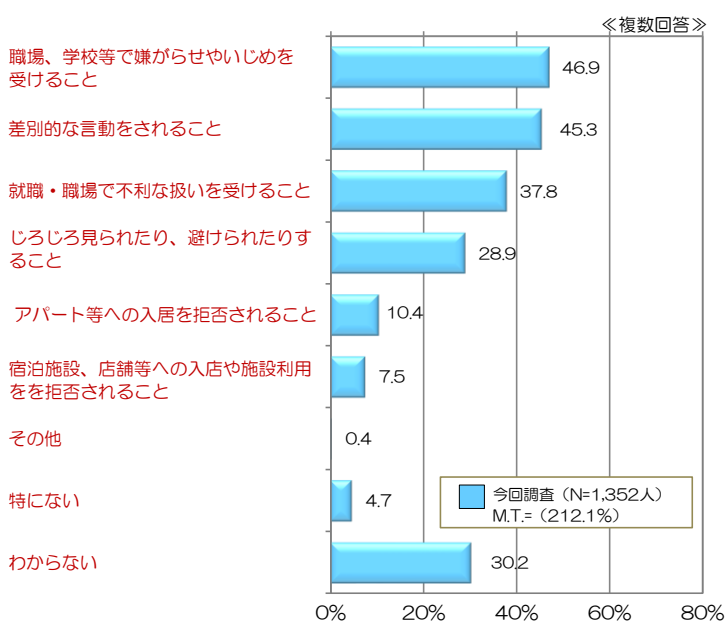


※「リベンジポルノが行われていること」は前回調査では項目なし。

※「ラインやツイッターなどのSNS等が犯罪を誘発する場となっていること」は前回調査の「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」、内閣府調査の「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」と比較している。

## 11. 性的指向・性自認などの性の多様性に関する人権について

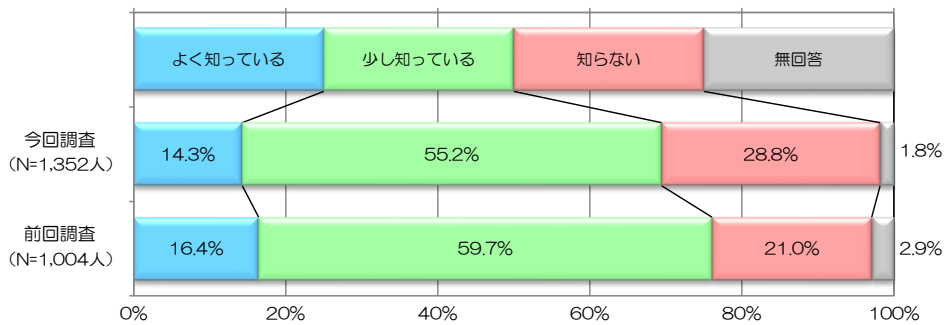
性の多様性に関し、起きていると思われる人権問題については、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が46.9%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(45.3%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(37.8%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(28.9%)の順となっています。



## 4 同和問題（部落差別）について

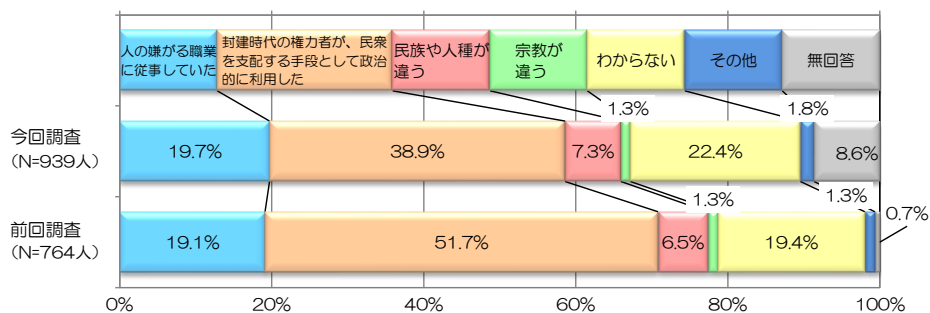
### 1. 同和問題（部落差別）に関する認識について

同和地区・同和問題（部落差別）に関する認知状況は、「よく知っている」が14.3%、「少し知っている」が55.2%となっており、69.5%の人が程度の差こそあれ認知しています。反対に「知らない」は28.8%となっています。



### 2. 同和問題（部落差別）の起源説

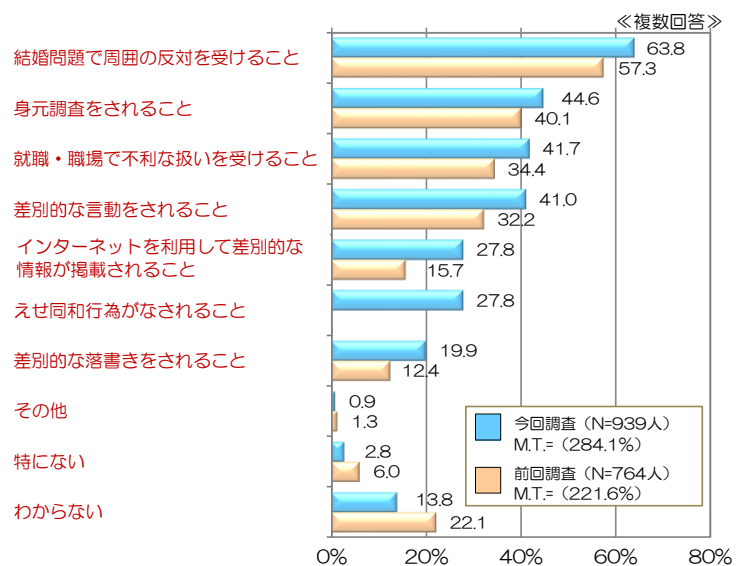
同和問題（部落差別）の起源については、「封建時代の権力者が、民衆を支配する手段として政治的に利用した」が38.9%と最も高く、次いで「わからない」(22.4%)、「人の嫌がる職業に従事していた」(19.7%)となっています。



### 3. 同和問題（部落差別）に関して起きていると思う人権問題

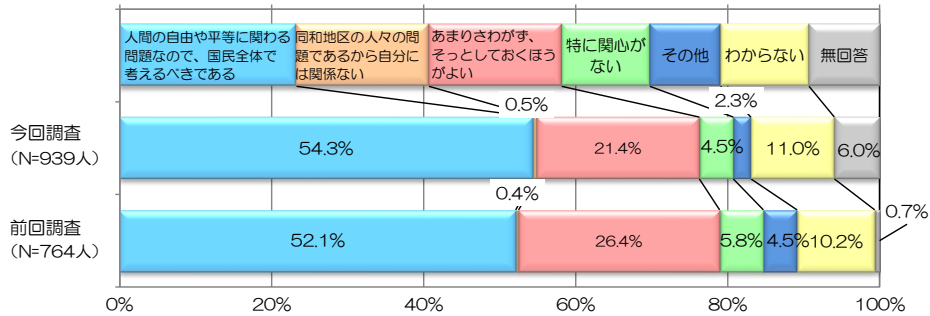
同和問題（部落差別）に関し、起きていると思われる人権問題は、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が63.8%と最も高く、次いで「身元調査をされること」(44.6%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(41.7%)、「差別的な言動をされること」(41.0%)の順となっています。

※「えせ同和行為がなされること」は前回調査では項目なし。



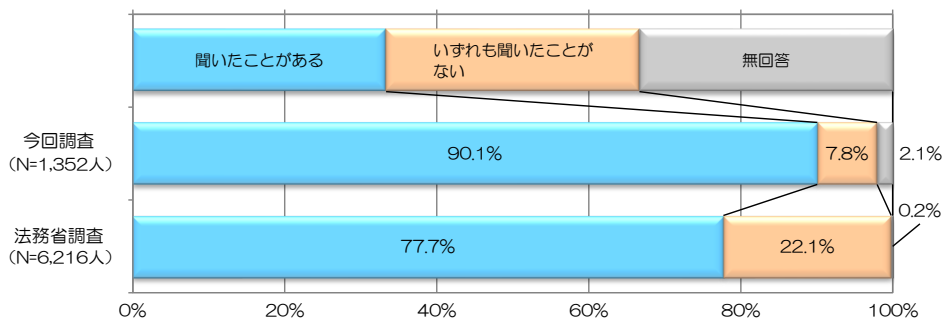
#### 4. 同和問題（部落差別）についての考え方

同和問題（部落差別）についての考え方は、「人間の自由や平等に関わる問題なので、国民全体で考えるべきである」が54.3%と最も高く、次いで「あまりさわがず、そっとしておくのがよい」（21.4%）、「わからない」（11.0%）の順となっています。



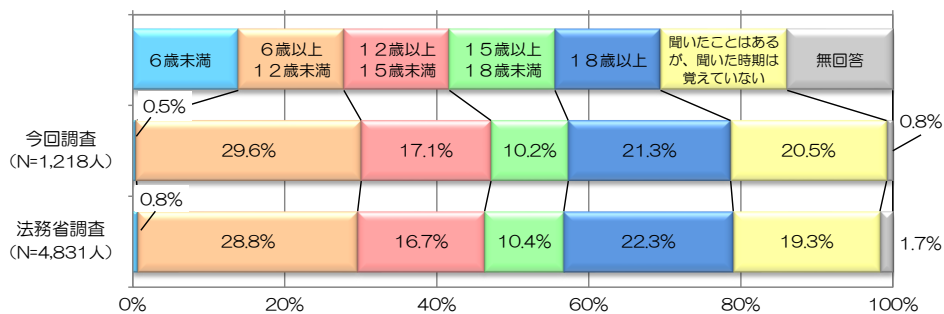
#### 5. 同和問題（部落差別）という言葉聞いたことがあるか

同和問題（部落差別）という言葉聞いたことがあるかについては、「聞いたことがある」が90.1%、「いずれも聞いたことがない」が7.8%となっています。



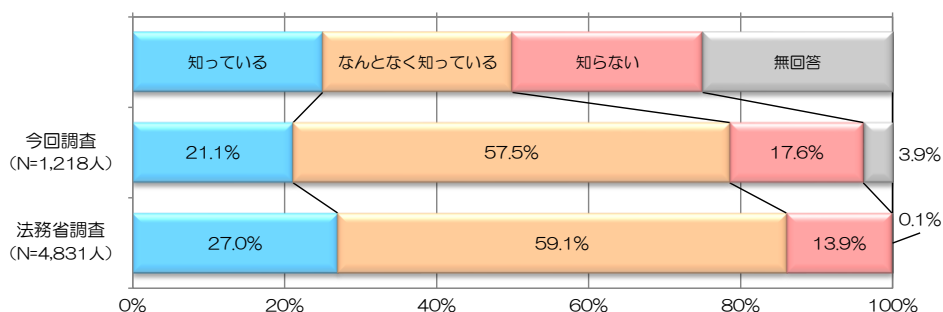
#### 6. 初めて部落差別又は同和問題の言葉を聞いた時期

初めて部落差別又は同和問題の言葉を聞いた時期については、「6歳以上12歳未満」が29.6%と最も高く、次いで「18歳以上」（21.3%）、「聞いたことはあるが、聞いた時期は覚えていない」（20.5%）の順となっています。



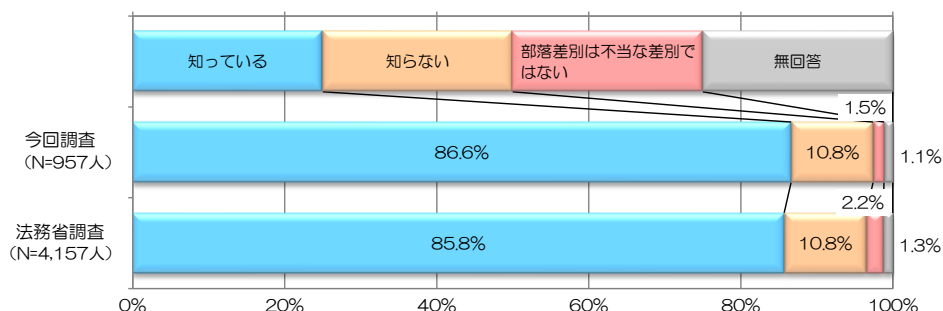
## 7. 部落差別又は同和問題がどういう内容のものか知っているか

部落差別又は同和問題の内容を知っているかについては、「知っている」が21.1%、「なんとなく知っている」が57.5%となっており、78.6%の人が“知っている”と回答しています。反対に「知らない」は17.6%となっています。



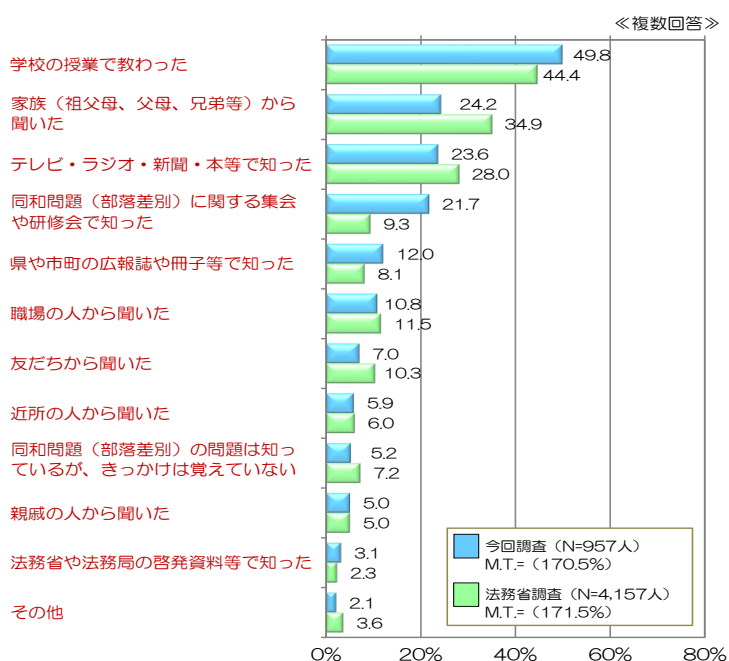
## 8. 同和問題（部落差別）が不当な差別であることを知っているか

同和問題（部落差別）が不当な差別であることを知っているかについては、「知っている」が86.6%と最も高く、次いで「知らない」（10.8%）、「部落差別は不当な差別ではない」（1.5%）の順となっています。



## 9. 同和問題（部落差別）を認知したきっかけ

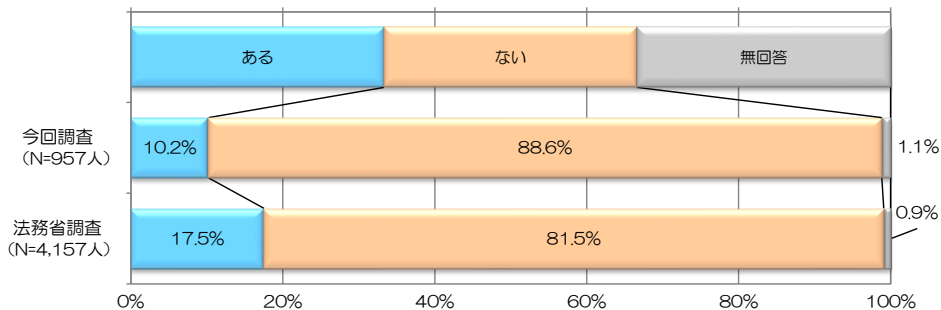
同和問題（部落差別）を初めて知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が49.8%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」（24.2%）、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」（23.6%）、「同和問題（部落差別）に関する集会や研修会で知った」（21.7%）の順となっています。





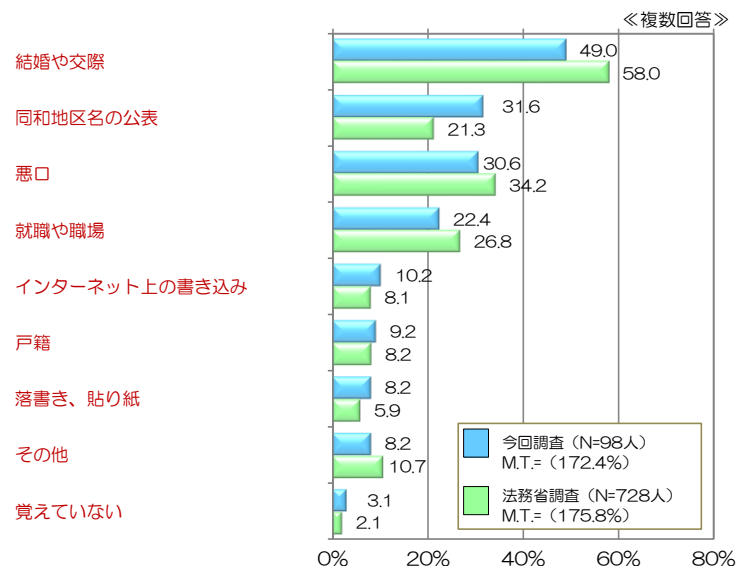
## 10. 同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をしたことがあるか

同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をしたことがあるかについては、「ある」が10.2%、「ない」が88.6%となっています。



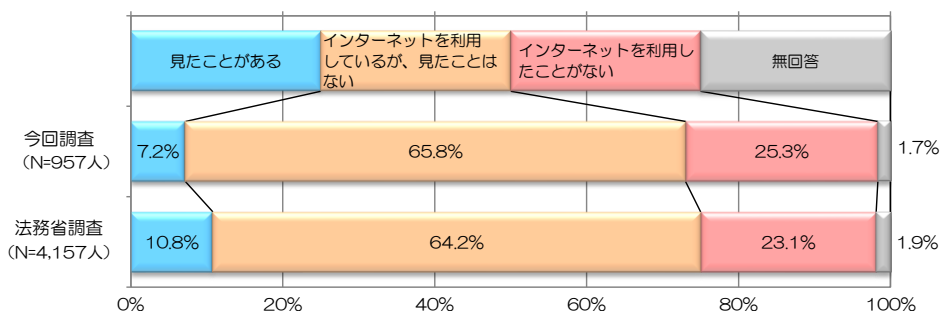
## 11. 同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をした場面、事例

同和問題（部落差別）の被害を受けたり、そのような言動をした場面、事例については、「結婚や交際」が49.0%と最も高く、次いで「同和地区名の公表」（31.6%）、「悪口」（30.6%）、「就職や職場」（22.4%）の順となっています。



## 12. 同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがあるか

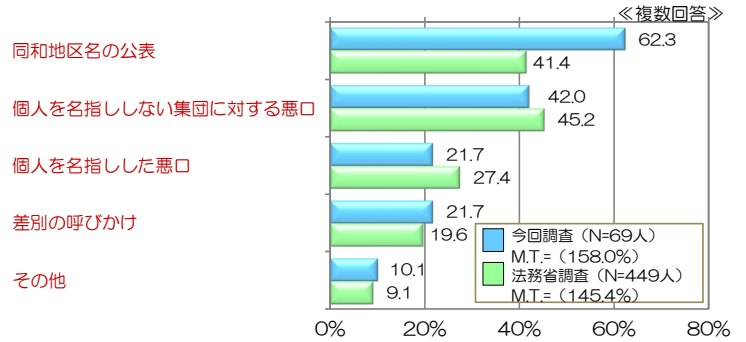
同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがあるかについては、「インターネットを利用しているが、見たことはない」が65.8%と最も高く、次いで「インターネットを利用したことがない」（25.3%）、「見たことがある」（7.2%）の順となっています。





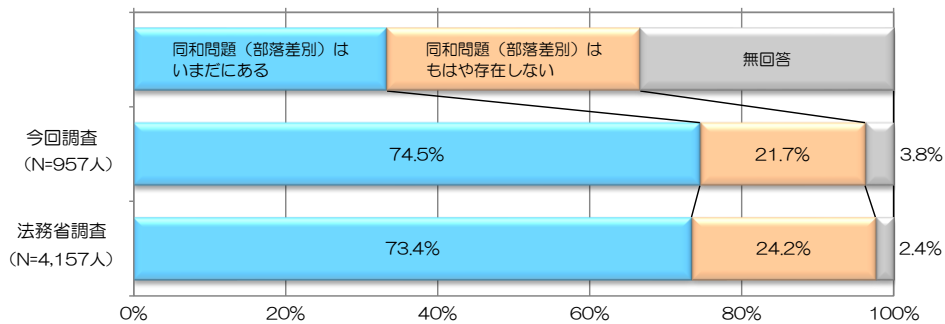
### 13. 同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で見た人権侵害事例の内容

同和問題（部落差別）に関して、インターネット上で見た人権侵害事例の内容については、「同和地区名の公表」が62.3%と最も高く、次いで「個人を名指ししない集団に対する悪口」（42.0%）、「個人を名指しした悪口」及び「差別の呼びかけ」（ともに21.7%）となっています。



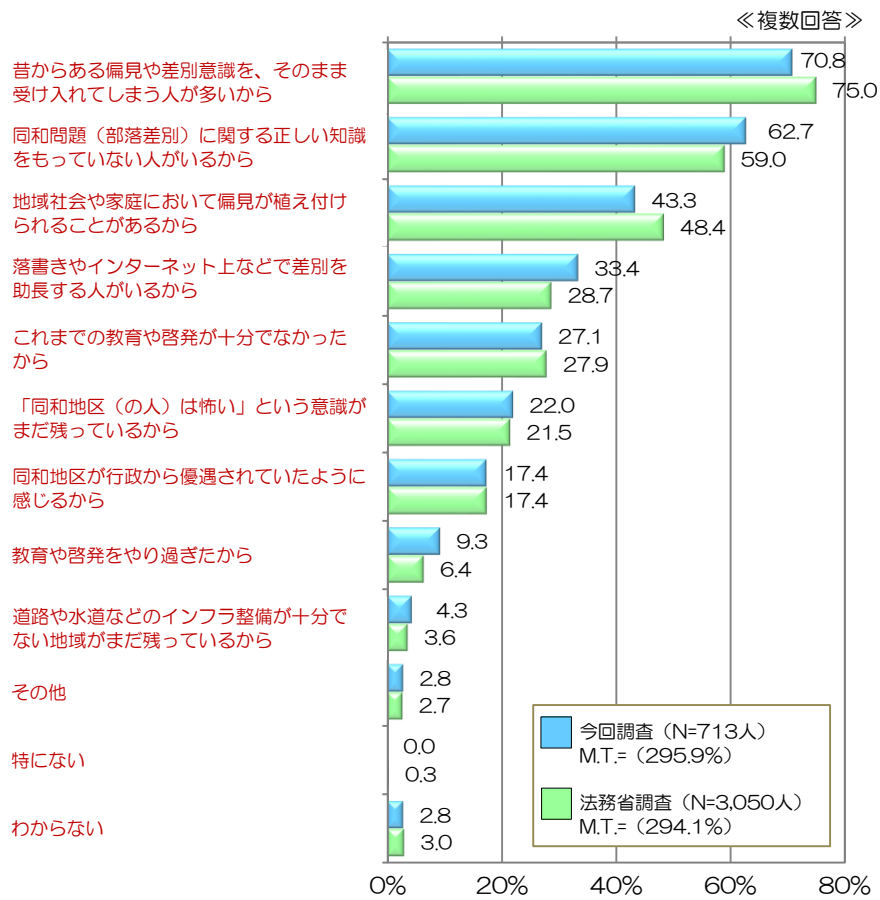
### 14. 現在でも同和問題（部落差別）があると思うか

現在でも同和問題（部落差別）があると思うかについては、「同和問題（部落差別）はいまだにある」が74.5%、「同和問題（部落差別）はもはや存在しない」が21.7%となっています。



## 15. 同和問題（部落差別）が残っているとすれば、その原因はどこにあると思うか

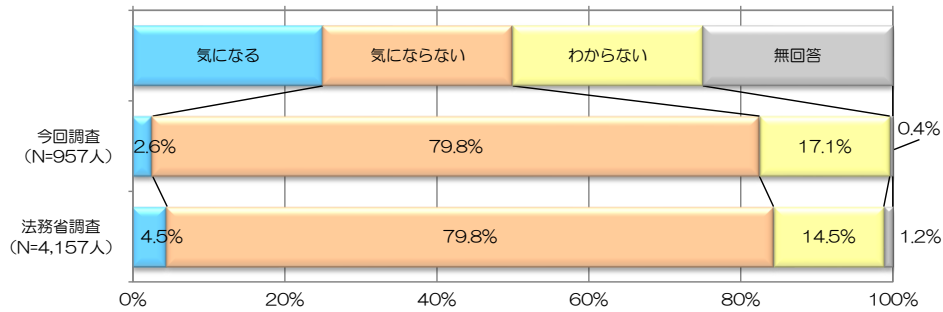
同和問題（部落差別）が残っているとすれば、その原因はどこにあると思うかについては、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が70.8%と最も高く、次いで「同和問題（部落差別）に関する正しい知識をもっていない人がいるから」（62.7%）、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」（43.3%）、「落書きやインターネット上などで差別を助長する人がいるから」（33.4%）の順となっています。



## 16. 同和地区出身者に対する意識について

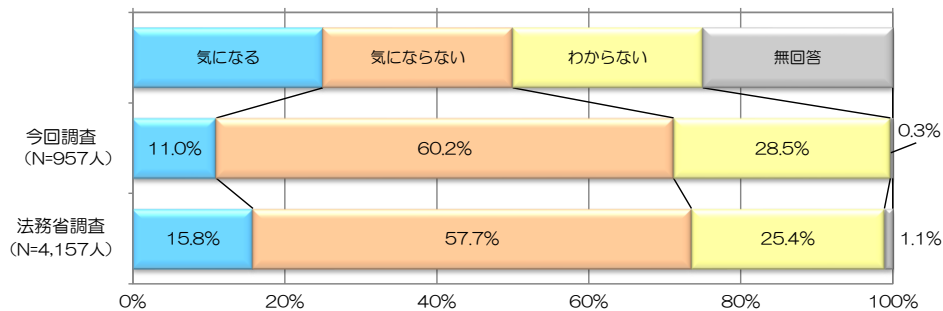
### ①近所の人の場合

近所の人が、同和地区の出身者であるか否か気になるかについては、「気にならない」が79.8%と最も高く、次いで「わからない」(17.1%)、「気になる」(2.6%)の順となっています。



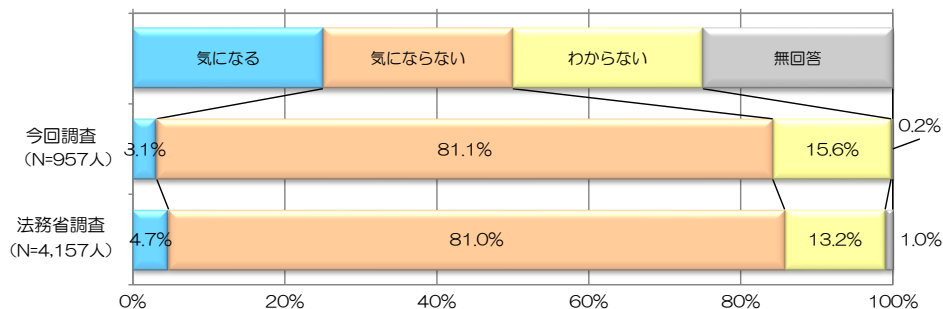
### ②交際相手や結婚相手の場合

交際相手や結婚相手が、同和地区の出身者であるか否か気になるかについては、「気にならない」が60.2%と最も高く、次いで「わからない」(28.5%)、「気になる」(11.0%)の順となっています。



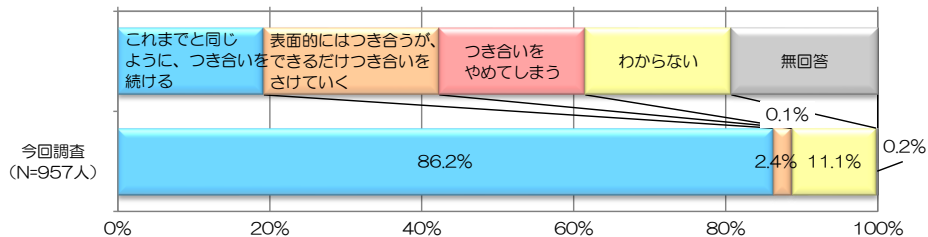
### ③求人に対する応募者や職場の同僚の場合

求人に対する応募者や職場の同僚が、同和地区の出身者であるか否か気になるかについては、「気にならない」が81.1%と最も高く、次いで「わからない」(15.6%)、「気になる」(3.1%)の順となっています。



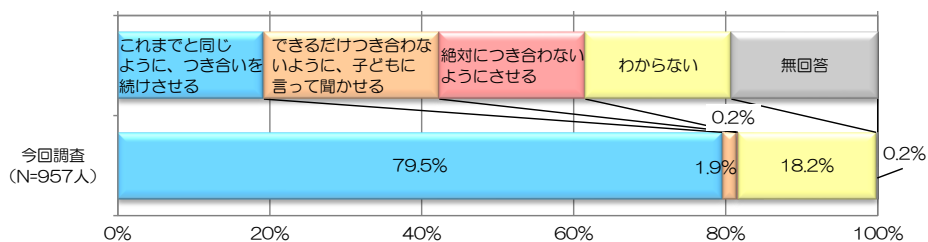
#### ④親しくつき合っている職場の人や近所の人の場合

日ごろから親しくつき合っている職場の人や近所の人が、同和地区出身の人であることがわかったときは、「これまでと同じように、つき合いを続ける」が86.2%と最も高く、次いで「わからない」(11.1%)、「表面的にはつき合うが、できるだけつき合いをさけていく」(2.4%)、「つき合いをやめてしまう」(0.1%)の順となっています。



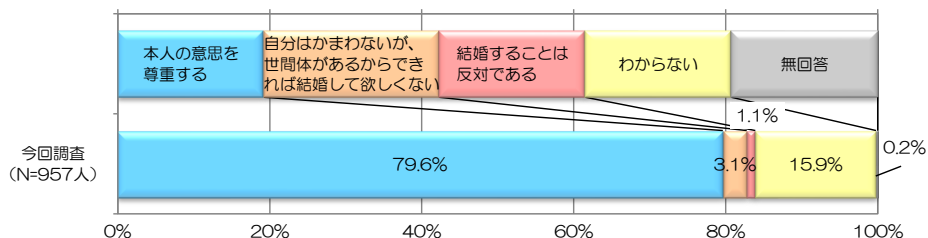
#### ⑤子どもの友達の場合

自分の子どもの友達が、同和地区出身の人であることがわかったときは、「これまでと同じように、つき合いを続けさせる」が79.5%と最も高く、次いで「わからない」(18.2%)、「できるだけつき合わないように、子どもに言って聞かせる」(1.9%)、「絶対につき合わせないようにする」(0.2%)の順となっています。



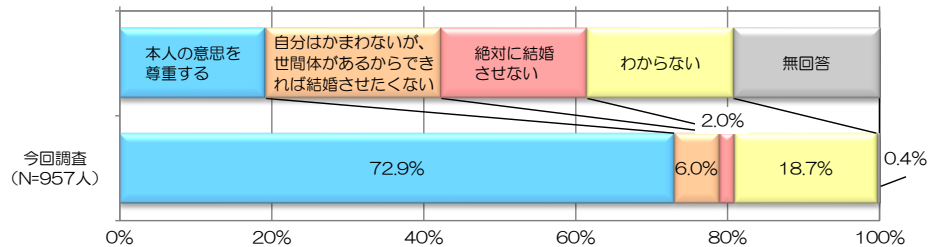
#### ⑥親戚や親しい人の結婚相手の場合

自分の親戚や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったときは、「本人の意思を尊重する」が79.6%と最も高く、次いで「わからない」(15.9%)、「自分がかまわないが、世間体があるからできれば結婚して欲しくない」(3.1%)、「結婚することには反対である」(1.1%)の順となっています。



### ⑦子どもの結婚相手の場合

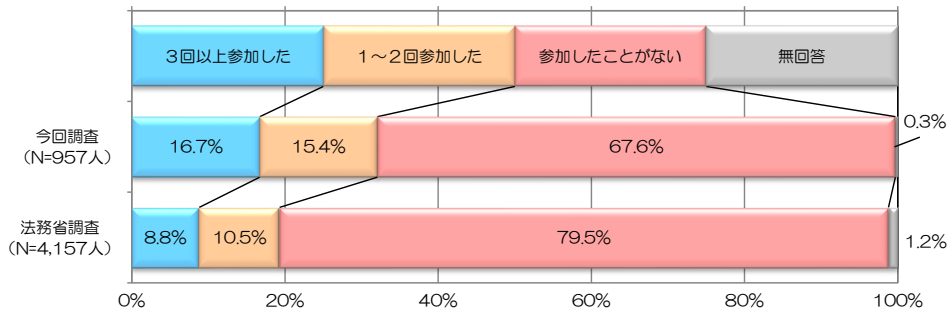
自分の子どもが結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったときは、「本人の意思を尊重する」が72.9%と最も高く、次いで「わからない」(18.7%)、「自分がかまわないが、世間体があるからできれば結婚させたくない」(6.0%)、「絶対に結婚させない」(2.0%)の順となっています。



## 17. 同和問題（部落差別）解決についての方策

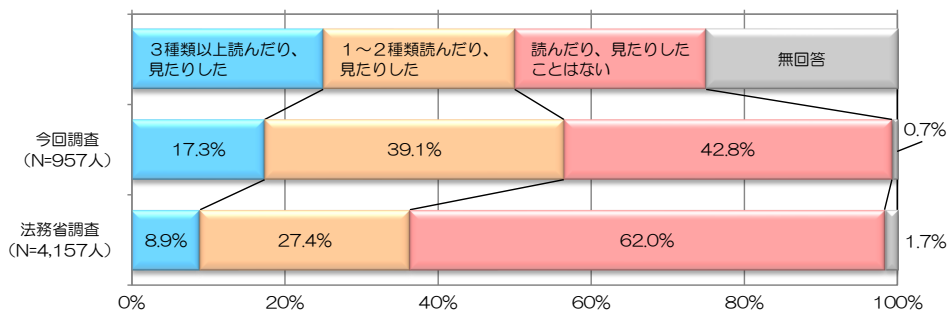
### ①講演会や研修会、地域懇談会、人権フェスティバルなどのイベント

講演会や研修会、地域懇談会、人権フェスティバルなどのイベントについては、「参加したことがない」が67.6%と最も高く、次いで「3回以上参加した」(16.7%)、「1～2回参加した」(15.4%)の順となっています。



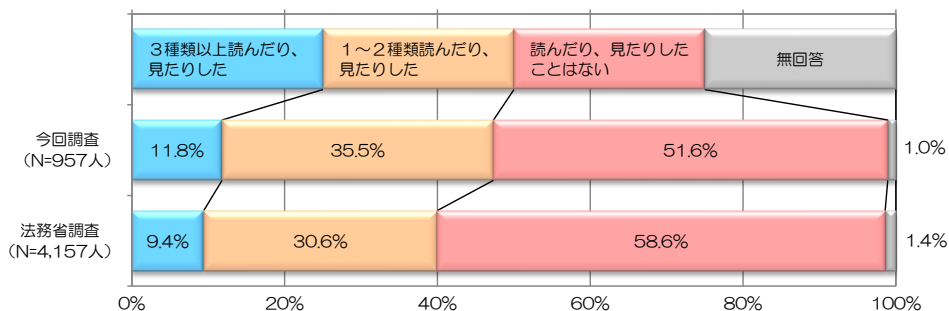
### ②市町村等の広報誌、パンフレット、掲示版（ポスター、看板等）

市町村等の広報誌、パンフレット、掲示版（ポスター、看板等）については、「読んだり、見たりしたことはない」が42.8%と最も高く、次いで「1～2種類読んだり、見たりした」(39.1%)、「3種類以上読んだり、見たりした」(17.3%)の順となっています。



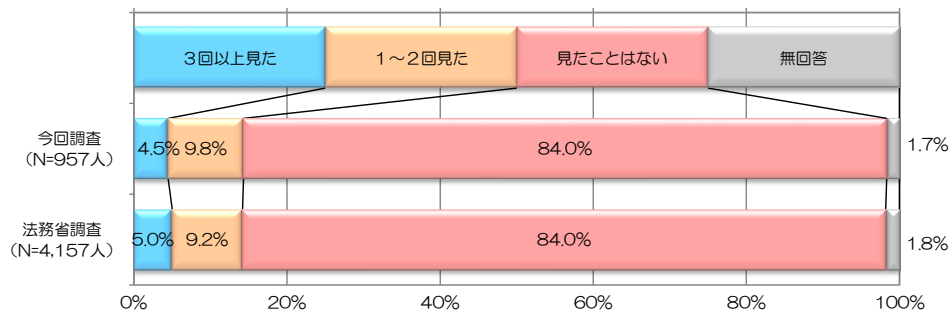
### ③新聞、書籍、雑誌

新聞、書籍、雑誌については、「読んだり、見たりしたことはない」が51.6%と最も高く、次いで「1～2種類読んだり、見たりした」(35.5%)、「3種類以上読んだり、見たりした」(11.8%)の順となっています。



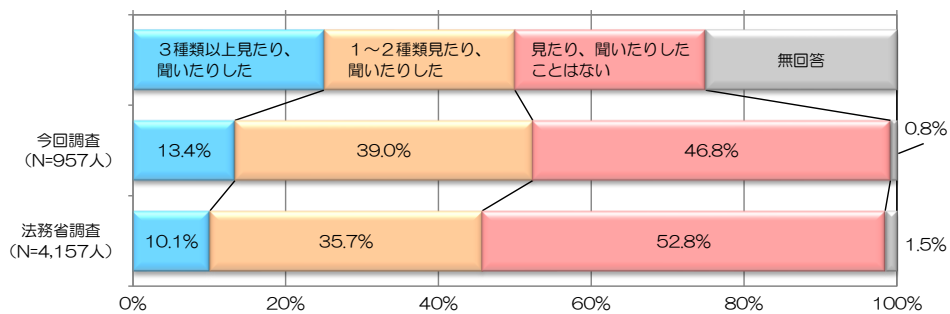
#### ④インターネット

インターネットについては、「見たことはない」が84.0%と最も高く、次いで「1～2回見た」(9.8%)、「3回以上見た」(4.5%)の順となっています。



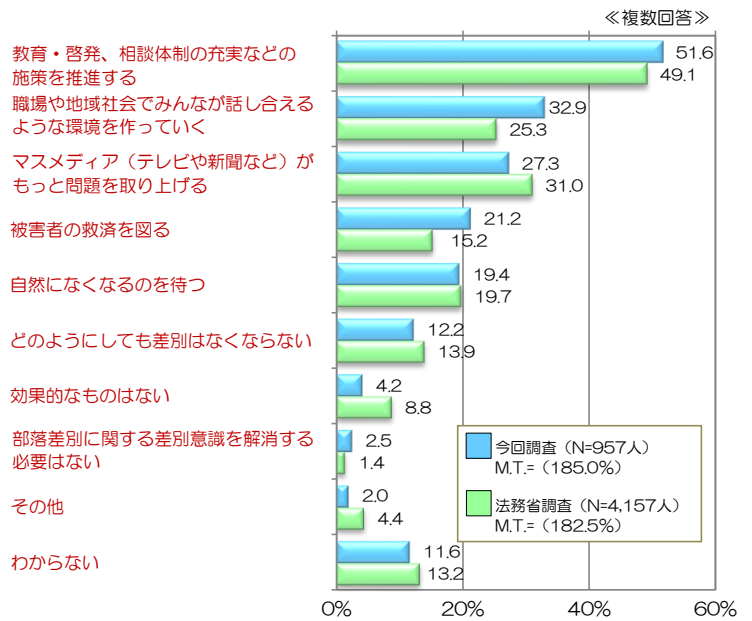
#### ⑤テレビ、ラジオ、映画、ビデオ

テレビ、ラジオ、映画、ビデオについては、「見たり、聞いたりしたことはない」が46.8%と最も高く、次いで「1～2種類見たり、聞いたりした」(39.0%)、「3種類以上見たり、聞いたりした」(13.4%)の順となっています。



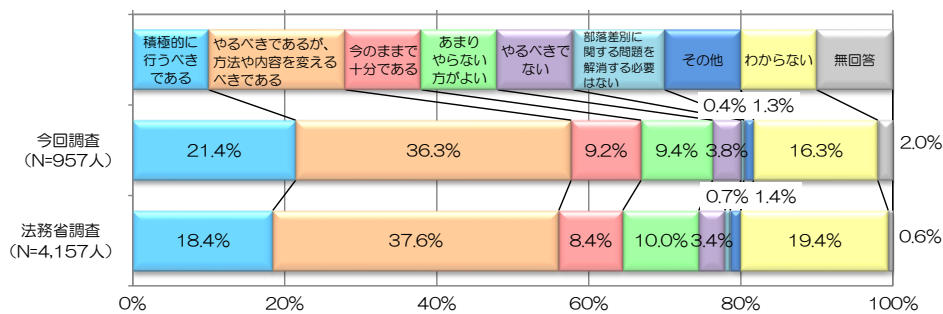
## 18. 同和問題（部落差別）の解決に必要なこと

同和問題（部落差別）の解決に必要なことについては、「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」が51.6%と最も高く、次いで「職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作っていく」（32.9%）、「マスメディア（テレビや新聞など）がもっと問題を取り上げる」（27.3%）の順となっています。



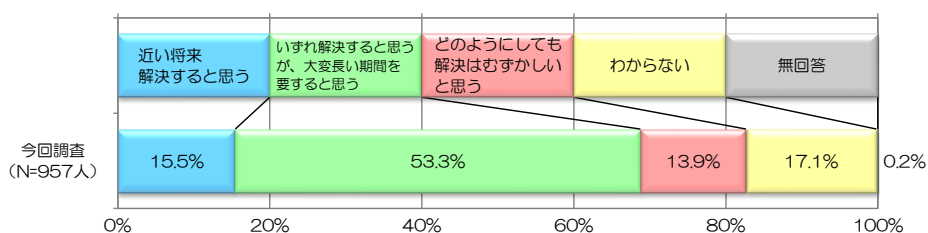
## 19. 同和問題（部落差別）を解消するために、学校教育や啓発をどのようにすればよいか

同和問題（部落差別）を解消するために、学校教育や啓発をどのようにすればよいかは、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が36.3%と最も高く、次いで「積極的に行うべきである」（21.4%）、「わからない」（16.3%）の順となっています。



## 20. 同和問題（部落差別）の将来

同和問題（部落差別）がこれからどうなると思うかについては、「近い将来解決すると思う」が15.5%、「いずれ解決すると思うが、大変長い期間を要すると思う」が53.3%と、いずれにしても“解決する”と思っている人は合わせて68.8%に上っています。反対に「どのようにしても解決はむずかしいと思う」は13.9%となっています。



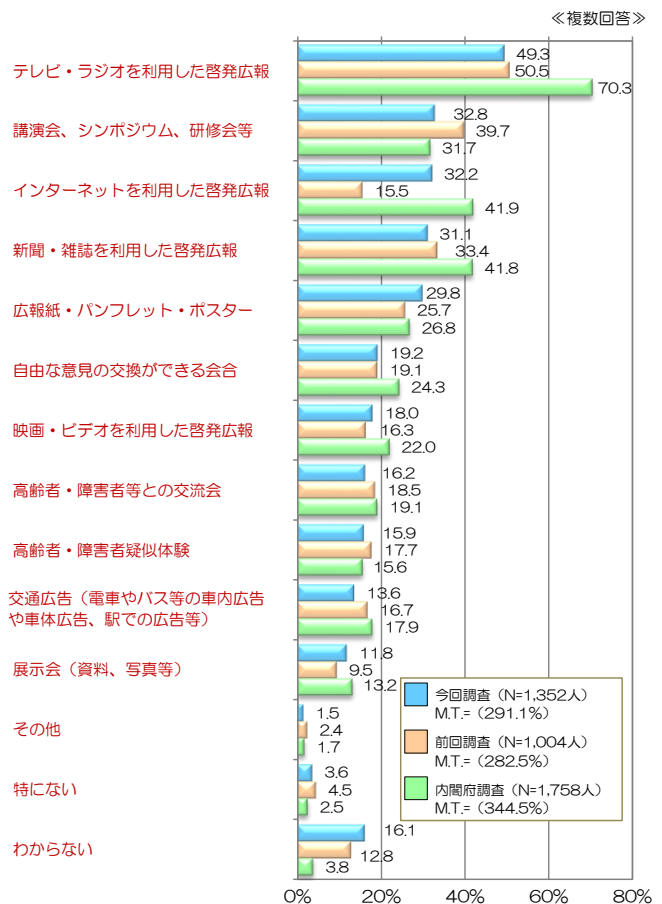


## 5 人権擁護に関する啓発活動について

### 1. 人権擁護の効果的な啓発活動

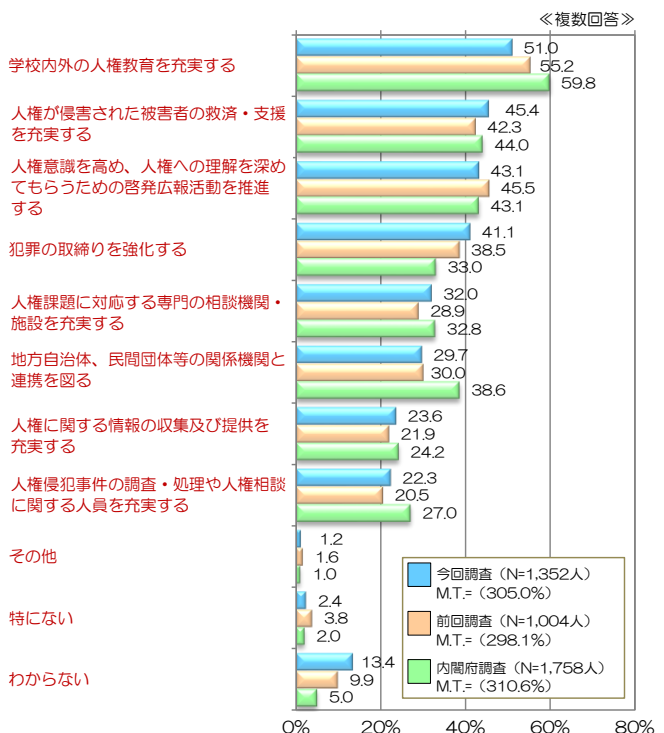
人権啓発を推進するために、県民に対して、どのような啓発広報活動が効果的かについては、「テレビ・ラジオを利用した啓発広報」が49.3%と最も高く、次いで「講演会、シンポジウム、研修会等」(32.8%)、「インターネットを利用した啓発広報」(32.2%)、「新聞・雑誌を利用した啓発広報」(31.1%)、「広報紙・パンフレット・ポスター」(29.8%)の順となっています。

「新聞・雑誌を利用した啓発広報」(31.1%)、「広報紙・パンフレット・ポスター」(29.8%)の順となっています。



### 2. 人権問題の解決策

今後、県は人権擁護に関し、どのようなことに力を入れていけばよいかについては、「学校内外の人権教育を充実する」が51.0%と最も高く、次いで「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」(45.4%)、「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」(43.1%)、「犯罪の取締りを強化する」(41.1%)、「人権課題に対応する専門の相談機関・施設を充実する」(32.0%)の順となっています。





## 人権に関する県民意識調査報告書（概要版）

令和4年（2022年）3月

発行 佐賀県県民環境部人権・同和対策課

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号

電話（0952）25-7063／FAX（0952）25-7332

URL <https://www.pref.saga.lg.jp/>